

令和7年度 兵庫県農業気象技術情報第4号（8月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈がやや短く、茎数は多い。高温の影響で生育が進み、出穂は平年に比べ3日程度早まる見込みである。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年並み、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」ともに著しく多い。主稈葉数の進み方も0.8葉ほど早い。</p> <p>県北部では、草丈は長く、茎数は著しく多い。出穂期は「コシヒカリ」で平年より3日程度早まっており、地域やほ場間での生育差が生じている。</p> <p>2 栽培管理</p> <p>早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。肥効調節型肥料による省力体系では幼穂形成期から出穂期までに極端に葉色がさめる場合は穂肥を検討する。極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。</p> <p>出穂後、かなりの高温が予想されるので、乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、可能であれば出穂後20日間、飽水（湿潤）管理等で日中の熱のこもりを逃がすことに努める。出穂20日以降は、間断灌漑や飽水（湿潤）管理によって、根の活力の維持に努める。</p> <p>3 病害虫</p> <p>(1) 7月下旬における県全体のいもち病の発生は、やや少ない発生である。</p> <p>(2) 紋枯病の発生は、県全体ではやや少ない発生である。今後、高温下で垂直進展を行うので発病状況に留意する。</p>	<p>3 病害虫</p> <p>(1) 箱施用剤は移植後、概ね1ヶ月半頃から効果が減退する。また、ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などほ場内に入ってよく観察し、いもち病の発生の有無を確認する。発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。</p> <p>薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に選定し、適正に防除する。</p> <p>(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前に薬剤防除を行う。</p>

水稲	全県共通	<p>(3) ウンカ類の発生について、ヒメトビウンカは平年並、セジロウンカはやや少なく、トビイロウンカは予察灯やほ場においても確認されていない。トビイロウンカについて、今後気温が高く推移し増殖に好適な条件となるため、発生に留意する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、本田での発生がやや多く、今後の発生もやや多いと予想される。一部のほ場では、イネカメムシやミナミアオカメムシなど大型のカメムシが多く発生しており、今後、出穂に伴う加害・増殖が懸念される。</p>	<p>(3) ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用している場合でも、処理後日数の経過に伴って効果が低下するので、その後の発生に注意する。この時期のトビイロウンカの発生は局所的であるため、ほ場内複数箇所での調査を行う。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類の発生状況を確認した上、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに完了させる。出穂間近の畦畔除草は、ほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。なお、出穂前でもほ場内に多くイネカメムシが発生している場合は薬剤防除を行う。詳細は、7月17日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第1号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1384) を参照する。</p>
大豆	全県共通	<p>1 生育 7月の極端な高温が影響して、降雨や灌水の有無によって地域やほ場間で生育差が大きくなっている。高温寡雨の地域では土壤の乾燥が甚だしいことから、平年に比べて生育量が少なく、遅延気味である。</p> <p>2 栽培管理 土壤の乾燥が甚だしい場合には、灌水等で土壤水分の確保に努める。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意し、夕方から夜間にかけて適切に畝間灌水等を実施する。</p> <p>3 病害虫 (1) 7月下旬における茎疫病の発生はやや少なく、紫斑病の発生は少ない。</p>	<p>3 病害虫 (1) 立枯性病害、特に茎疫病は畝間灌水実施後等、排水対策の徹底が重要である。高温乾燥時にはかん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。紫斑病対策としては開花期に防除を行う。</p>

		<p>(2) ハスモンヨトウについては、キャベツの項を参照。</p> <p>カメムシ類については、7月下旬において、県全体で平年並の発生であったが、今後の発生はやや多いと予想される。周辺雑草が好適な繁殖場所となるため、発生に注意する。</p>	<p>(2) ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているため、早期発見に努め、見つけ次第除去する。</p> <p>カメムシについては、着莢初期～子実肥大期に防除する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に選定し、適正に防除する。</p>
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温期の育苗となるため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(2) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(3) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p> <p>(4) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>(5) 除草剤（土壌処理タイプ）の散布タイミングを逃さないよう注意する。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) ベンチ等での浮かし育苗とし、かん水の過不足がないよう注意するとともに、苗が徒長しないよう日没前のタイミングでのかん水を控える。</p> <p>(2) 早めに液肥を施用する。</p> <p>(3) 高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。</p> <p>(4) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。</p> <p>(5) 散布直後に降雨にあたらないよう天気予報を確認し、計画的に作業を行う。</p>

		<p>2 病害虫</p> <p>7月におけるフェロモントラップへの成虫誘殺数は、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ及びオオタバコガのいずれもやや多い。今後、ほ場での発生は、シロイチモジヨトウが多く、ハスモンヨトウ、オオタバコガがともにやや多いと予想される。</p> <p>ハイマダラノメイガは、7月下旬において、平年より多い発生であった。今後、本虫種の発生盛期を迎えることから、多い発生が予想される。</p> <p>これらの虫種について、育苗中から被害発生に注意する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウの若齢幼虫は集団で加害するので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。シロイチモジヨトウについては、詳細は8月7日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第3号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1426) を、オオタバコガについては、詳細は5月20日発表の令和7年度病害虫発生予察防除情報第5号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1346) を参照する。</p> <p>ハイマダラノメイガは、育苗期や定植直後に加害を受けると被害が大きいため、予防的な防除に努める。「病害虫発生予察情報」、「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。詳細は、7月24日発表の令和7年度病害虫発生予察注意報第2号 (https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1390) を参照する。</p>
果樹	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。</p> <p>(2) 樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。</p> <p>(3) 適期収穫に努める。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温乾燥が続く場合は土壌水分管理に特に注意が必要である。急激な土壌水分の変化を避けるため、敷き草等のマルチを行うとともに、晴天が続く場合には適度なかん水を行う。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効であるとともに一部被覆の除去も検討する。</p> <p>(2) 樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏季せん定を行う。</p> <p>(3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p>

樹種別の生育状況（7月3半旬時点）

クリ	生育は平年に比べ5日程度早く、着糖は平年並みである。
ブドウ	生育は平年よりやや遅く、果粒肥大や着色は前年並み。
ナシ	果実の生育は昨年並みで、平年より1日早い。
イチジク	着果始めは平年よりもやや遅く、新梢の生育は平年並みである。
温州ミカン	生理落果、果実の生育ともに平年並みである。

調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、
温州ミカンは南あわじ市

2 台風対策

気象情報に留意し、台風の接近が予想される場合は右記の対策を行う。

3 病害虫

7月下旬のナシ黒斑病は平年並の発生であり、今後も平年並の発生と予想される。

果樹カメムシ類の発生は平年並で、今後の発生も平年並と予想している。

2 台風対策

枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。

台風通過前から、病害予防のため薬剤防除を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。

3 病害虫

果樹カメムシ類の飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。詳細は5月2日発表の令和7年度病害虫発生予察防除情報第2号 (<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1320>) を参照する。

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、8月5日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (08/02~09/01)		
2025年07月31日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		向こう1か月は気温の高い状態が続く見込みです。
向こう1か月 08/02~09/01	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 08/02~08/08	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 08/09~08/15	気温	2週目は、高い確率50%です。
3~4週目 08/16~08/29	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 08/02~09/01	10 20 70
		1週目 08/02~08/08	10 10 80
		2週目 08/09~08/15	20 30 50
		3~4週目 08/16~08/29	10 30 60
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 08/02~09/01	40 30 30
	近畿日本海側	向こう1か月 08/02~09/01	30 40 30
日照時間	近畿地方	向こう1か月 08/02~09/01	20 40 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (08月~10月)		
2025年07月22日14時00分 大阪管区気象台 発表		
08月~10月	気温	平均気温は、高い確率70%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	08月~10月	10 20 70
		08月	20 30 50
		09月	10 30 60
		10月	10 30 60
降水量	近畿太平洋側	08月~10月	30 30 40
		08月	30 40 30
		09月	30 30 40
		10月	20 40 40
	近畿日本海側	08月~10月	30 30 40
		08月	30 40 30
		09月	30 30 40
		10月	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病虫害防除所（病虫害発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病虫害・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougoubou.jyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課

TEL (078) 341-7711(代表)

農産班:主作・機械担当 内線 79409

農産班:野菜担当 内線 79410

花き果樹班 内線 79411

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部

TEL (0790) 47-2435

農業技術センター 農産園芸部

TEL (0790) 47-2410

農業技術センター 病虫害部

TEL (0790) 47-1222

北部農業技術センター 農業・加工流通部

TEL (079) 674-1230

淡路農業技術センター 農業部

TEL (0799) 42-4880